

# 二世豊竹古靱大夫床年譜 (十二)

(轉載不許)

年次 劇場並に狂言 古靱大夫に關する記事 淨瑠璃界一般

大正七年

十一月廿九日初日

(七日間)

熊本 大和座

十二月七日初日

(六日間)

小倉 常盤座

十二月十三日初日

(三日間)

門司 凱旋座

十二月十八日初日

(三日間)

吉井町 末廣座

十二月廿二日初日

(五日間)

廣島 壽座

大正八年(四十二歳)

一月二日初日

(三十二日間)

前 日吉丸権櫻 大序より三段目迄 文樂座

中 近頃河原の逢引 堀川之段迄

次 義士銘々傳 赤垣出立之段

切 廓文章 吉田屋之段

二月九日初日

(二十九日間)

前 繪本太功記 大序より 同座

中 傾城阿波の鳴戸 尼ヶ崎之段迄 十郎兵衛住家

切 廿三間堂棟出來 平太郎住家之 段迄 段より仇討之

一行、古靱大夫、清六、綴大夫、徳太郎、英大夫、歌助、町大夫、猿太  
 郎、辰大夫、喜代之助、伊達香大夫、清照大夫、清秀。人形部文五郎、玉五郎、紋三外十三名  
 阪東辰造

役場 (二度目)四條河原之段  
 三味線 三世鶴澤清六

役場 (二度目)尼ヶ崎之段中(夕顔  
 柳) 三味線 三世鶴澤清六

越路大夫、十八日より病氣休演の爲  
 め三日間、古靱大夫、尼ヶ崎之段中  
 より引継ぎ切場を代役す。

竹本南部大夫、病氣全快久々にて出  
 動す。

三月十六日初日  
(二十九日間)

前 義經千本櫻 文 樂 座  
大序より  
道行之段迄  
切 奥州安達原 袖萩祭文之段

四月廿三日初日  
(三十日間)

前 本朝廿四孝 同 座  
大序より  
狐火之段迄  
中 艶容女舞衣 長町美濃屋之段よ  
り酒屋之段迄  
切 壺坂靈驗記 土佐町之段より壺  
坂寺御禮參り之段  
迄

五月廿四日初日  
(四日間)

淡路志筑町 三島屋

六月一日初日  
(三十二日間)

前 伽羅先代萩 文 樂 座  
大序より御殿場迄  
中 楠 昔 噺 其拍子之段より徳  
津大塚銅像建設記念狂言  
佛寫縁の當矢  
次 増補忠臣蔵 本藏下屋敷之段  
新口村之段よ  
切 戀飛脚大和往來 段迄  
り長谷街道之

役場 (初役)袖萩祭文之段切  
三味線 三世鶴澤清六

役場 (初役)長町美濃屋之段奥  
右役場は丸本通りと三松屋町六世豊  
澤廣助新に節付せしものなり

一行  
古靱大夫、清六、菅大夫、徳太郎  
美大夫、猿太郎、吉野大夫、つば  
清一、辰大夫、清大夫、清二郎  
(人形部)  
文五郎、紋三、外敷名

役場 (三度目)殖生村之段切  
三味線 三世鶴澤清六  
佛寫縁の當矢  
妙落大夫、叶大夫、伊達大夫、む  
ら大夫、町大夫、源大夫、南部大  
夫、廣助、清六、竹三郎、廣太郎  
猿二郎、友治郎  
(人形)  
中將姫(玉藏)、廣繼(琴糸)、お弓  
(玉五郎)、おつる(箕助)、八重桐

五月二十七日大阪天王寺境内に建設  
を舉行、建設委員は文部大臣中橋  
徳五郎氏なりき。

攝津大塚銅像建設記念旅行  
六世豊澤廣助久々にて出勤  
六月十七日、八世鶴澤三二建幕式大  
阪東區小橋光照寺に於て舉行さる

七月六日初日  
 (四日 間)  
 七月十日初日  
 (三日 間)  
 七月十五日初日  
 (十五日 間)  
 八月二日  
 (六日 間)  
 八月九日初日  
 (三日 間)  
 八月十三日初日  
 (二日 間)  
 八月十五日初日  
 (三日 間)  
 八月十八日初日  
 (二日 間)  
 八月二十日  
 八月廿三日初日  
 (二日 間)  
 八月廿五月初日  
 (三日 間)

名古屋 御園座  
 一之宮 満壽義堂  
 東京 有樂座  
 仙臺 開明座  
 福島 新開座  
 大曲町 大曲劇場  
 秋田 秋田劇場  
 能代 米代座  
 湯澤 高吉座  
 尾張津島町 巴座  
 岐阜 明治座

(文三)、初榮、榮三、久松(政繼)  
 與二郎(玉藏)、梅ヶ枝(文五郎)、葛の葉(玉七)、童子(玉徳)、與勘平(玉治郎)、野勘平(紋三)  
 一行  
 古坂大夫、清六、呂大夫、芳之助、英大夫、徳太郎、靜大夫、歌助、友若、清一、清丸、宗吉、辰五郎、小兵吉、文五郎外數名  
 右の内、呂大夫、芳之助、照大夫は有樂座打揚後歸阪す。

是にて夏休

年次

劇場並に狂言

古親大夫に關する記事

淨瑠璃界一觀

九月廿六日初日  
(二十八日間)

前 生寫朝顔話 大序より  
中 ひらかな盛衰記 遺櫓之段  
切 伊勢音頭戀寝奴 油屋之段より  
奥庭之段迄

十月三十日初日  
(二十九日間)

假名手本忠臣蔵 大序より仇討迄  
同座

十二月一日初日  
(六日間)

和歌山 辨天座

十二月八日初日  
(四日間)  
十二月廿日初日  
(八日間)

廣島 壽座  
松山 新榮座

役場 (二度目) 濱松之段奥  
三味線 三世鶴澤清六

役場 (初役) 祇園一力之段  
掛合 平右衛門  
三味線 三世鶴澤清六

(初役) 山科閑居之段中  
(雪こかし)  
三味線 鶴澤燕世

一行 古親大夫、清六、駒大夫、團六、豊  
静大夫、歌助、町大夫、友造、豊  
島大夫、淺造、辰大夫、清一、富  
榮大夫、清秀、清二郎、外に岸本  
木村猪

(人形部)  
文五郎、玉五郎、玉治郎、玉七、  
紋三、政兼外數名

一行 古親大夫、清六、時大夫、燕四、  
静大夫、歌助、英大夫、淺造、豊  
島大夫、清二郎、辰大夫、清一、豊  
圓大夫、清秀外に中村仙助、木村  
猪之

本興行より時間改正あり正午開場、  
午後九時閉場となり、漸次場敷短縮  
さる。  
鶴大夫、五世豊竹和泉大夫と改名。  
第一回巡業、田發す。一座は伊達  
尾大夫、叶大夫、鐵大夫、濱大夫、鶴  
叶、徳太郎、吉作外數名。  
本興行は近來なき盛況にて初日より  
モライ日迄大入満員なり。  
竹本越路大夫一座の東京行日取都合  
にて廿九日間にて打揚となる。  
是にて冬休